

2. 広報・情報基盤委員会^{*1}

瀬尾 宏美^{*2}（委員長・高知大学医学教育創造センター）

広報・情報基盤委員会は第21期（2020年6月～）から名称変更となったが、基本的な活動内容に変更はなく、①学会の広報、②情報基盤の開発、③会員等への資料提供、といった役割を担っている。広報面では、公式ホームページ上での学会紹介や公式連絡を定期的に行い、また、和文・英文のパンフレットも作成している。さらに、学会ロゴの管理も担当している。また、学会 facebook を通じて即時性のある情報提供を行っている。

情報基盤の開発に関しては、ICT 教育部会と連携しながら医学教育の現場で使える e ラーニング教材の開発や、これを共有するための環境整備（Moodle, Xerte, Vimeo）を行っている。

COVID-19 を契機に高まったオンラインでの

授業や講習会などの技術開発や支援についても ICT 教育部会と連携しながら検討を行っている。

資料の提供については、インターネット（医学教育情報館 MEAL: Medical Education Assets Library）上での医学教育用語集の公開や医学教育（研究）に有用な文献・書籍の紹介および資料の提供がある。各委員会および部会の公開資料アーカイブ化に向けた準備を行っていく。なお、4年ごとに刊行される医学教育白書の企画・編纂も当委員会の重要な役割となっている。

副委員長：椎橋実智男、委員：浅田義和、白井いづみ、大西弘高、下正宗、菅沼太陽、杉本なおみ、鶴田 潤、中村真理子、丹羽雅之、Breugelmans Raoul、オブザーバー：守屋利佳

^{*1} Public Relations and Information Infrastructure Committee

^{*2} Hiromi Seo

3. 学会国際化委員会^{*1}

矢野 晴美^{*2}（委員長・国際医療福祉大学医学教育統括センター）

学会国際化委員会では、2020年6月1日付で、第21期の委員会が発足した。2020年は、歴史的にも100年に一度の世界的流行と言われる新型コロナウイルス感染症と共存する時代である。新型コロナウイルス感染症は、世界中で、これまでの医療者教育の常識を覆し、さまざまな影響を及ぼしている。本委員会では、この状況を医療者教育のさらなる発展の機会と捉えて活動を開始している。医療の領域における教育科学の発展は近年、目まぐるしい状況である。第21

期委員会では、国内外での最新の知見を生かし、現場の教育環境の質の向上に尽力し、良質の教育の実践を国内外で展開することを理念とし活動している。

また、第17期（鈴木康之委員長）および第19期（村岡亮委員長）のご活動を引き継ぎ、医療者教育研究においても国際交流を推進していく方針である。国内から世界に向けて医療者教育のベストプラクティスや研究面での知見を情報発信することをさらに推進する。

学会の国際化については、これまで本委員会が中心となって、日韓招聘講演の実施（双方に演者を派遣する交流事業）およびインターナショナルセッションを企画し運営に携わってきた。第52回大会（主管大学：鹿児島大学）では、新型コロナウイルス感染の蔓延により、一部オンライン開催となった。第53回大会（主管大学：自治医科大学）では、完全オンライン開催となった。本委員会では、インターナショナルセッションの充実を図り、医学教育専門家および本委員会委員により、他の日本語抄録と一貫性があり統一された体制で査読を実施した。また、第53回大会（主管大学：自治医科大学）では、初めて、日本、韓国、台湾の医学教育学会の国際関連委員会と3ヵ国合同シンポジウムを行った。韓国および台湾から演者を招聘し、最新知見に関する講演をいただき有益であった。

最後に、本委員会は、ダイバーシティの強みを活かすため、医学系、看護系、歯科医学系、若手メンバー、女性と男性が半数ずつなどにし、最大限考慮した構成員となっている。

今後の展望として、大会運営委員会と連携し、「国際化とは何か」、「大会の国際化」、「学会の国際化」について、議論を深める予定である。

第21期の学会国際化委員会のミッション

1. インターナショナルセッション (ITNS) のさらなる発展

国内外からの発表がしやすくなるように、英語セッションの充実を図ります。

2. 日韓交流事業

年次総会での招聘演者の交換に加え、医療者教育研究の面でもZoomなどによる遠隔会

議により、これまでは実行困難であった定期交流会などを構想しております。

3. 新しい国際交流の構築

東アジア諸国での医療者教育のさらなる発展を目標に、近隣諸国との新しい交流プログラムの構築を目標とします。文化背景の近い台湾などとの交流を推進します。またベトナムなど日本との交流が盛んになっている国との交流も検討して参ります。

4. 医療者教育研究の国際連携体制

APME-Net (Asian Pacific Medical Education Network) など、医療者教育研究分野における海外研究者との交流を支援します。

5. 医療者教育関連学会との連携および国際交流の推進

欧州医学教育学会 AMEE、アジアパシフィック医学教育学会 APMEC、オタワカンファレンス (Ottawa Conference) などと学術的な交流を図り、教育科学の最新知見を本邦でも取り入れ、生かしながら、文化的背景を考慮した最適な形により推進します。

6. 戦略的な情報発信と共有

日本医学教育学会および当委員会の教育・研究活動等を積極的に、迅速に発信し共有いたします。本学会のホームページを中心に、英語での情報発信・共有をさらに拡充いたします。

副委員長：菊川誠、委員：阿部恵子、伊藤公人、太田隆一、BREUGELMANS RAOUL、道信良子、宮地由佳、及川 沙耶佳、山本さゆり、吉田登志子、長崎一哉、徳増一樹

*1 Internationalization Committee

*2 Harumi Gomi